

第187回 市町村職員を対象とするセミナー  
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築について

# 我が街の「にも包括」の取組を ロジックモデルで確認してみよう

～”自治体職員が学ぶ はじめての「にも包括」ロジックモデル”より～



令和8年7月10日(金)

国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部  
森山 葉子

# まずはロジックモデルを眺めて みましょう p15-16

まずは日頃のみなさんの取組を、「にも包括ロジックモデル」から探し、どのように最終アウトカムまで流れているか（流れる予定であるか）眺めてみましょう。  
\*ビギナー編では、付録4に掲載されている、研究班が作成した「にも包括ロジックモデル」を眺めてみましょう。

## 眺め方

### ① 最終アウトカムの確認

研究班では「にも包括ロジックモデル」の最終アウトカムを図3（付録4）のようにおためしました。みなさんの自治体の目指す姿はどのようなものでしょうか。このロジックモデルと同じようなことを想定しているか、あるいは我が街独自の目標を想定していたか見てみましょう。

#### ポイント！

計画を立て、取組を実施する際は、我が街の住民の皆さんがどのように暮らしてほしいか、目指す姿を思い浮かべながら進めることが重要です。さらにそれを、コアチームで共有することが大切です。

「にも包括」の最終目標は「精神障害の有無にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らす」ことです。これを元に住民がどのように暮らしているかよいかが思い描けるでしょうか。



### ② アクティビティ

現在「にも包括」構築の一環として、みなさんが取り組んでいることを思い浮かべてみてください。そのうち一つを選んで、ロジックモデルのアクティビティの各領域の中にある例に該当する取組を探してください。同じ取組がなければ、その取組が含まれそうな領域を選んでください。

選んだ取組について、回数や参加人数等を集計していれば、それがアウトプットに当たります。これまで集計していたでしょうか。それを取組や事業の評価として把握してきたでしょうか。

#### ポイント！

評価のためにアウトプット（開催回数や参加者数など）を把握することも必要ですが、アウトカムも意識することが重要です。

施策や事業をアウトプットで評価しがちですが、どんなにたくさん開催し、たくさんの参加者がいたとしても、そのことで地域や市民の状況に変化がなければ、効果があるとは言えないかもしれません。場合によっては、悪くなってしまっていることもあるので、注意が必要です。



②で一つ選んだアクティビティを実施することで、中間アウトカム（地域や住民の状況の変化）に記載された状況のいずれかに、つながっている実感はありますか？また、それらアウトカムが良くなっているなどの感覚はありますか？あるいは中間アウトカムを、指標を用いて測定しているでしょうか。

（今回はビギナー編のため煩雑にならないよう、初期アウトカムの検討は省略しています。）

#### ポイント！

取り組んでいることは何のためにやっているのか（目的）、地域や住民にどうなって欲しいか（中間・最終アウトカム）を常に意識することが大切です。



注）自身で決めた意味のある人生を取り戻す過程

# 次は、我が街の取組をロジックモデルにあてはめてみましょう p17-18



注) 自身で決めた意味のある人生を取り戻す過程

## 「にも包括ロジックモデル」あてはめてみる版 p28

## 5. アドバンスト編 ～実際にあてはめてみる～

みなさんが取り組んでいる「にも包括」構築に向けた取組は、普段はロジックモデルのような流れを意識していないかもしれませんが、自ずとこれに沿った検討や評価をしている箇所があると思います。アドバンスト編では、「にも包括ロジックモデル」のインプットとアクティビティについて空欄にしてあります。日頃のみなさんの取組を、付録5のロジックモデルにあてはめて、記載してみましょう。

### ① 最終アウトカムの確認

研究班では「にも包括ロジックモデル」の最終アウトカムを付録5のようにおいてみましたが、みなさんの自治体の目指す姿はどのようなものでしょうか。このロジックモデルと同じようなことを想定していたか、あるいは街独自の目標を想定しているか見てみましょう。

日頃、無意識に取り組んでいて、どの領域に該当するか考えるのが難しいかもしれませんが、「にも包括」構築の一環として行っていることについて、付録5の例を参考に検討してみてください。



### ② インプット

一番左のインプットに、現状や課題、予算、人材、地域資源・強みを記載します。

### ③ アクティビティ

現在「にも包括」構築に向けて取り組んでいる施策・事業をたくさん思い浮かべ、アクティビティの当てはまる領域に記載していきます。

### ④ アウトプット

③で取組として記載した箇所のアウトプットに、実施回数や参加人数など、今現在測定している指標、あるいはこんな指標で測定できるのではないかとする指標を記載します。今現在、測定・把握しているものと、そうでないものを色付けなどで区分してみましょう。今はすべてを把握していないかもしれません。今後、把握できそうかどうか検討してみてください。

### ⑤ 中間アウトカム

みなさんの取組が、研究班で設定した中間アウトカムに向けて、矢印で結ぶような中間アウトカムの指標はありますか？みなさんの取組がどの中間アウトカム指標に結び付きそうか、⇒をひいてみましょう。（可能であれば、その取組により、まず起こる変化（初期アウトカム）も検討してみてください。難しければ、中間アウトカムに直接⇒をひいて構いませんが、本来はその前に初期アウトカムが変化してから中間アウトカムが変化することを意識してください。）

一つの取組から、たくさんの矢印が出ることもあれば、一つの中間アウトカムにたくさんの矢印が向くこともあります。今回は、まず一本引いてみる、でもOKです。



### ⑥ ロジックモデルにあてはめてみた感想

①～⑤を行ってみたいかがたてしょうか。率直な感想を関係者で話し合ってみましょう。

みなさんの取組は最終アウトカムに向けたものだったでしょうか。またそれを意識できていましたか？みなさんと共有できているとよいですね。

